

2023年度第2四半期 決算説明会 質疑応答

開催日 : 2023年11月9日(木)
出席者 : 代表取締役社長執行役員 川瀬 正裕
取締役専務執行役員 齋藤 考

1. 2023年度上期実績、通期見通しについて

Q. 2023年度通期見通しを据え置いており、上期実績に対して下期の増益幅が大きい
が、その内容について詳細を教えてください。特に米州コスト増が下期から改善され
るのか、インフレコストの売価転嫁が進んでいるか教えてください。

A. ・米国での品質不良について、下期より不良率の改善が既に確認できている。
今後の品質不良対策として、国内にある減衰力センターを米国等海外拠点にも設置
することが決定している。
・メキシコの設備故障について、国内より設備担当者を送り既に改善できている。上
期は設備故障による納期遅れに対応するための特便費用が一時的に発生していた
が、10月頭で解消できており下期への影響はほぼない。
・インフレコストの売価転嫁について、AC事業において、国内は順調に進んでお
り、米国に関しても品質不良の件で交渉が遅れたが、下期で大部分は売価転嫁の目
途がたっている。またHC事業においては、前年度の上期ほど下期への回収遅れに
よる影響はなく、大部分は回収の目途がたっている。

Q. 米国の品質不良について、過去に遡及して影響はあるのか。また、既に売った製品
に対して客先からクレームは来ているのか？

A. ・上期中に発生したものであり、過去に遡及して業績に影響はない。
・ショックアブソーバー製造の最終工程で100%品質チェックを行っており、不良品
として認識できているため、客先へは納入していない。客先へは良品を納入してお
り、クレームは来ていない。

2. PBR1 倍に向けた活動について

Q. PBR1 倍に向けて、現在議論されている内容を教えてほしい。

- A. ・PBR1 倍割れの現状分析を行い、現時点で 2 回取締役会にて報告があり、PBR1 倍に向けた今後の施策について議論している段階。
- ・株主還元について、まずは安定配当を行うこと、今年度行った自己株買いも今後行うことを検討していきたい。
 - ・政策保有株について、徐々に減らして有効な将来への投資のためのキャッシュとして活用していくことを議論している。

以 上